

令和6年9月27日

令和6年度 JA 都市農村交流全国協議会
都市農村交流優良活動先進地視察・研修会 報告書

JA 全中 JA 改革・組織基盤対策部くらし・高齢者対策課
JA 都市農村交流全国協議会事務局 森谷 篤

令和6年9月11～12日、JA 大井川の都市農村交流の取り組みを学ぶことを目的として、JA 大井川管内にて「先進地視察・研修会」を実施した。今回、単協会員からの申込みはなかったが、中央会、都市農村交流に直接かかわる全国機関から職員9名が参加した。

JA 大井川は令和3年より東京都武蔵野市の関前南小学校による「プレセカンドスクール」という名の校外学習活動（農山漁村の学習・宿泊体験）を受入れており、JA を代表する農産物であるお茶の学習に重点を置き、管内の広大な茶畑や関連施設の紹介等を通じて、都会の子供達との交流を実践している。

今回の視察・研修会の1つ目の目的は「プレセカンドスクール」の視察であり、初日の行程では、小学生の体験学習に同行し、JA による受入れの様子をライブで視察した。子どもたちは、地域の観光名所である大井川に架かる全長897.4mの世界一長い木造歩道橋「蓬萊橋」を徒歩で渡り、その先にある牧之原大茶園を見渡す展望台で、先生役の JA 若手職員から、お茶の種類や栽培方法について、クイズを交えて説明を受けた。子どもたちからの質問も活発に出て、想定外の質問に、ベテラン職員のフォローが入る場面もあ

った。

次に JA の茶仕上加工工場へ移動し、子どもたちは、工場職員から加工工程の説明を受けながら、仕上加工機械や保冷库等を見学した。工場職員の案内は慣れた様子で、時に笑いも取り、普段なかなか見る事のできない工場内部を紹介していた。荒茶の香りの比較など、五感を使った体験も好評であった。

我々はここで小学生と別れ、工場 2 階の会議室で、JA 大井川営農経済部農業経営支援課の森脇陽亮氏より、JA 大井川の都市農村交流活動取り組みについて、講義を受けた。農業生産に関わる営農・経済事業に加え、農業体験や観光により、農・食に興味を持つ人を地域に流入させ、農家所得向上や地域農業の存続につなげる目的で、JA 大井川は昨年まで「大井川農泊推進協議会」（行政団体、JA 等で構成され、交流拠点の整備、情報発信を含めた農泊推進を行う）の事務局を担ってきた。

しかしながら、農泊は現役農家が行うには負担が大きく、所得向上に直結しづらいこと、また、ツアー企画やコーディネート・集客等は、専門の組織が担う方が効率的といった理由から、今年 6 月以降は県内の広告代理店へ事務局を移管することとなった。JA は、引き続き、協議会構成団体として食農体験プログラムの開発や JA 組織・地域生産者との調整役を担っている。

協議会活動とは別に、JA の今後の取組方向として、収穫体験パッケージのネット販売や、農協観光と連携した「JA 援農支援隊」（一般企業・大学生による援農ボランティア）については、農家・JA のメリットが期待できることから、継続していく。また、茶畑の景観が楽しめる場所貸しなど、農家負担の少ない仕組みで収益化を図りたいとのことであった。

今回の視察・研修会の2つ目の目的はグリーンツーリズム体験で、管内の榛原郡川根本町にある農家民宿施設「花ねこ」、「天空の宿」へ、グループに分かれて宿泊した。今回はスケジュールの都合で、農家民宿での各種体験（農業、調理）をすることは叶わなかったが、緑豊かな山間地の景色に癒され、取れたての地場産食材を使った郷土料理をご提供いただき、農家オーナーと交流することができた。

行程2日目は島田市に戻り、お茶の産業や歴史・文化を学ぶことができる「ふじのくに茶の都ミュージアム」を訪れた。最後にJA大井川、島田市、大井川鐵道、NEXCO中日本が共同で運営する緑茶・農業・観光の体験型フードパーク「KADODE OOIGAWA」を訪れ、代表取締役社長の福本氏より、設立目的・概要を伺い、施設をご案内いただいた。KADODE OOIGAWAは、当初計画では年間120万人の来場者数を目標に掲げたものの、コロナ禍によりオープン初年度の2021年は30万人、その後2023年は年間96万人を達成し、2024年は100万人超を目指しているという。今回は、好みの16種の茶葉、温度、時間から選択し自分に適したお茶を淹れる事ができる「緑茶B.I.Yスタンド」を体験し、大井川流域の農産物をふんだんに使用したビュッフェスタイルの農家レストラン「Da Monde」で昼食をいただいた。

<所感>

JA大井川の取り組みは昨年度の事例集掲載時の取材や情報意見交換集会でも発表をいただいていたが、今回実際に現場を見て詳細なお話を聞く事で、現場の苦労や工夫、様々な課題が見え、より理解を深める事が出来た。農泊をきっかけとし、様々な活動や事業に発展し、少しずつ認知もされてきているが、まだまだ収益性は伴っていないという。

SL やトロッコ列車等の大井川鐵道や大井川流域に点在する観光スポットや温泉に加え、お茶産業を主体とした農泊エリア、博物館、交流拠点の「KADODE OOIGAWA」と多くが揃う、魅力あふれる地域であることは今回良くわかった。

この地域へ、どのように人を流入させ地域活性、農家所得向上に繋げて行くかを考え、実行していくのは、今回その価値を十分に知った参加者の大きな役割であると感じた。

以上